



発行所  
興行寺教化部

福井県吉田郡永平寺町藤巻34-2  
電話 0776-64-2744  
FAX 0776-64-2791

新田塚道場 (支坊)  
福井市新田塚2丁目46-26  
電話 0776-26-1191  
FAX 0776-26-7868

### 伝灯奉告法要参拝終る

### 本願寺

昨年十月一日より十期八十日間に亘って、第二十五代専如門主が継職されたことを阿弥陀如来と親鸞聖人の御前に奉告された伝灯奉告法要が、去る五月三十一日をもって終了した。

興行寺でも吉田組の各寺院の方と、三月十一日、ご門徒四十四名と副住職、若坊守、大谷法務員がバス一台にて団体参拝した。各地より乗車していただき、午後の法要に参拝した。終了後、帰宅した。日帰りで少々強行日程であったが、感激深い尊い一日であった。

住職は四月二十七日、八日二日間、大谷法務員と。正座が出来ないので余間のイス席で列衆として出勤した。この法要に際し、ご門主様より「念仏者の生き方」としての、ご消息が配布され、み教えが広く伝わり、共に、我々ご門信徒としてのあり方を示されました。

この法要を機縁に皆さまのご家庭におきましても、お念仏のみ教えが若い方々に伝えて頂き、次世代においても、み教えが繁盛しますようにご尽力いただきたく存じます。

ご参拝しての思いをご紹介いたします。

### 伝灯奉告法要に

### 参加して

片瀬 柴田喜代美様

去る三月十一日の本山伝灯奉告法要へは夫婦で参加することができました。興

行寺一行のバスは片瀬が五時四十分とまだ暗いうちの出発でしたが、その後の各地区の皆さんもそれぞれの集合場所に滞りなくご集合いただき、順調に京都・本山に到着することが出来ました。午後二時から法要、続いて伝灯のつどいが進められ、私たち



は阿弥陀堂にてお参りとなりました。専如門主様はご挨拶で、何一つとしてたよりになるものがないこの世の中で、あらゆるものを分け隔てなく救おうと働きかけてくださる阿弥陀様のご本願こそ確かな依りどころだとおっしゃいました。私たちにかたりか

けられるそのご様子に、これからこの大きな本願寺教団を背負っていく決意がひしひしと感じられ、微力ながら私もできることで力を尽くしていこうとの思いを新たにしました。

帰路では滋賀県での夕食時にご住職からお酒の差し入れをいただき、バスの道中はベテランガイドさんの軽妙なおしゃべりで大変快適な和やかなミニツアーとなりました。

伝灯奉告法要ですが、妻の母は前回の法要にお参りしたとのこと、私の子供たちもいつかそのようなお参りの縁をいただけたらと願うばかりです。

(仏社会長、総代)

——\*\*\*——

藤巻 山田芳雄様

此の度、副住職、若坊守と共に、興行寺門徒四十五名が、宗祖親鸞聖人の御前にて、第二十五代専如門主が法灯を継承した事を、奉告される法要に参拝する機会を得る事が出来ました。

本願寺の阿弥陀堂にて、福井教区吉田組の門徒を始めとする、全国より参拝された門徒と共に、ご門主様のもと正信偈のおつとめをさせていただきました。阿弥陀堂、御影堂の約二千名程の一糸乱れぬ唱和に感銘すると共に、親鸞聖人以来八百年に渡り、み教えが綿綿と受け継がれて来た事を思うと、その壮大を目の当たりにいたしました。

「法灯のつどい」では、一人一人がお言葉を述べられ、非常に身近に、親近感を大きくすると共に、ご家

族の暖かさを強く感じる一時でありました。

浄土真宗のみ教えが二十五代に渡り伝えられている事の大切さ、重大さを強く感じる事が出来ました。

自分が今日ある事を、先人、先祖、そして幾多の人々との恵まれた出会いに支えられて来た事に感謝すると共に、我が子、孫に何を残し伝えるものがあるだろうかかと振り返り、これからの生活の中で、どの様に生きて行けば良いのか、思い考えながら帰路のバスに揺られた一日であった。

——\*\*\*——

(総代)

松岡町 比島敏則様

去る三月十一日に興行寺バス一台と、吉田組内の各お寺からバス七台にて、伝灯奉告法要に参拝しました。

本願寺到着した後、飛雲閣や、龍谷ミュージアムでは本願寺の歴史宗主のご事績の特別展を見学致しました。

午後二時より阿弥陀堂と御影堂で同時に伝灯奉告法要が同時に進行し、正信念佛偈を中心に構成されたお経が、門主様や多数のお坊様を中心に唱えられ感動しながら聞きいっておりました。

最後に、恩徳讃を斉唱し第二十五代専如門主伝灯奉告法要が全て終了しました。

この度の伝灯奉告法要に参加して第二十四代、第二十五代の門主様にお会い出来た事は、一生の思い出になったのではないかと心から思っている次第です。

### 法話

### もったいなし、もったいなし

本誓寺住職 松本梶丸先生

好天に恵まれた夕方、思い立つて久しぶりに海に落日を見に行った。水平線にひととき輝きながら落ちていく夕日を眺めつつ、ふと後ろをふりかえると、東の山の端から思いかげず月が昇るところであった。何十年ぶりのことだったろうか、こんな風景に出合ったのは、不思議と心が満ち足りてくるのを感じた。その時、その風景に重なる、ひとつの詩が思い出されたのである。

「もったいなし」  
ああ、もったいなし  
もったいなし  
この掌をどちらに  
あわせたものか  
いま日ははいる  
うしるには

月が出ている  
山村暮鳥の詩である。暮鳥は一生を通し極貧の生活の中で、結核のため四十一歳で没した。その過酷な人生に挑戦するように、暮鳥の詩は難解そのものである。しかし、後年、信仰の深まりであろうか、一転して一切のものを肯定し、生きとし生けるものと心を通わせて生きた。詩も極端に短く、なぜか「もったいなし」という言葉が溢れるように出てくるのである。

「もったいなし」。現代ではほとんど使われることのない言葉である。また、この言葉は言おうと思っても、人間の意思や努力からは生まれてこない。自分

が開催されました。初めに、大谷宗家が入堂され園児による花束が贈呈され、続いてご門主様のお言葉をいただいた後、ご門主様のこれまでの歩み、前門主様のご事績とメッセージが照会されました。

最後に、恩徳讃を斉唱し第二十五代専如門主伝灯奉告法要が全て終了しました。

この度の伝灯奉告法要に参加して第二十四代、第二十五代の門主様にお会い出来た事は、一生の思い出になったのではないかと心から思っている次第です。

生かしているものに、無と頭下がったところから生まれてくる言葉である。「もったいなし」という言葉が、日本人の暮らしの中から消えていったということは、言葉の問題ではなく、日本人の内面の貧困を如実に物語ってはいないだろうか。

暮鳥の生涯が世間的には苦悩に満ちた惨澹たる人生であっても、生きることに全体を、「もったいなし」と受け止める時を感じながら生きたことは、人間として至福の生涯であったかもしれない。

沈みゆく夕日。昇りくる月。千古の昔から変わらない風景である。ゆくりなくもその風景を目の前にして、私は『方丈記』の一節をふと想起した。「人の営み、みな愚かなるに……」。(生半の見える時「中日新聞より」)

# 北陸布教の道 (五)

## 超勝寺の成立



さてこの信性逝去によつて、超勝寺が誕生することとなる。その経緯を詳細に記す『反古裏書』の記述を見てみよう。

これによると、信性の没後、長男と次男とが対立し、寺から退出した長男が早世したため、長男支持派の門徒衆は、本願寺六代巧如の弟である頼円鸞雲を後継住持に招請したという。でもなぜ本願寺からなのだろうか。推測するに、かつて覚如・存覚が越前へ下向した時、同門の如道とともに誼をもった「記憶」が、いまだ残っていたからなのだろう。頼円は嘉慶元年生まれで、まだ結婚してない

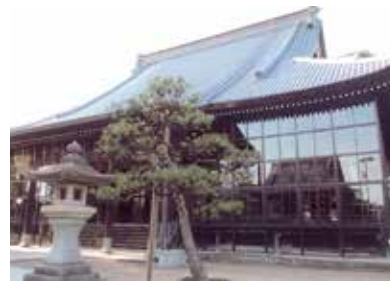
### 超勝寺の諸問題

寺基は吉田郡藤島(現福井市)の地に置かれ、超勝寺と号された。なお藤島の地は、新田義貞が戦死した所でもあり、京都青蓮院領でもあった。この藤島の地には、戦国期の有力寺院たる久末照厳寺(現金津町)・砂子田徳勝寺(現福井市・勝寺)や、浄光寺の寺基も存在していたことが

あつたらしい。頼円はやがて成人になり、「三公文」のうちの菅原氏から妻をめとり、在地の領主である藤島郷も盛り立てた(同心)という。藤島郷は、越前守護斯波氏の一族とも、「越前国押領使」とも伝えられている。ところが、頼円はやがて妻と不和になり、藤島に妻と如道を残し、加賀能美郡戸津(現小松市本蓮寺)へ移り、文安四(一四四七)年ここで没する。『反古裏書』には、頼円を「世法ニマトハレ法流ツフサナラサリシ」と、子の如道は「ヨロツ父ノ道ヲマナフ事マレ」と、孫の巧道も「法流ニウトクシ」と批判している。これは単に、父子相剋を批判した一文とも読めるが、もつと別な背景があるそうである。すなわち、蓮如の古崎下向期までの超勝寺は、教義的には本願寺と

一体ではなかつたためなのであろう。なお『反古裏書』によると、頼円の入寺の時、加賀の諸坊主衆へ、超勝寺と与力が命ぜられ、ただし荻生願成寺・河崎専稱寺・長崎称名寺・宮越西寺の四カ寺は「往古ヨリ御直参ノ衆」のため、与力の任から除か

れない。頼円の子や孫は、各地に繁茂していった。このうち、平泉寺(勝山市)は白山三馬場のうちの越前馬場に位置し、天台宗系の修験集団の本拠地であるが、おそらくは粟津の顕密寺院と推測される。時宗の福万寺も所在不明である。なお『時宗過去帳』の二十六代空達(一五二八、一三六)より結縁を受けた僧衆に、珠阿という者がおり、「超勝寺衆」と記されている(『加賀市史』通史上巻三九二頁)。大谷派超勝寺に、頼円・如道・巧道連座影像がある。裏書には大永四(一五二四)年本願寺九代実如より授与された旨が記されているが、表面の画相(三人とも紳如似の顔相)は、僧綱・白色強衣・檜扇の天台系の僧侶姿で描かれている。



真宗合同調査調査報告書より

な感じになりました。翌日はフエのゲン王宮を見学、「ほんまかいな」私の無知がもたらす感想でした。旅行初日は世界遺産の中でも最も美しいと言われる

今ベトナムの人たちの心意気は高く活気に溢れていることを強く感じました。ベトナム戦争でアメリカにも屈せず、かつては日本、仏、中国にも負けなかった自負が今尚受け継がれています。また、国全体の平均年齢は二十六才と若く上昇志考が高く「今日よりは明日、明日よりは明後日は必ず良くなる」そのために今日を頑張る、夢をもっている、そんな印象を受けました。無論そんな中にも問題、不満が無いわけでは有りません、社会主義にありがちな公務員、民間との差、所得格差も大きく課題は沢山あります。

### ベトナム周遊の旅

法務員 大谷幸美

今年三月一日よりベトナムに旅立ちました。

さて、日がせまり旅行日程が届きました。その日程については後日知ることにになりましたが、なんと日本の天皇、皇后陛下が一日違いでベトナムを訪問されると報道されたことです。計らずも私達一行は後を追うように出国することになり、今回の旅行は忘れることのない良い思い出となりました。

旅行日程は首都ハノイからフエ、ホイアン、ホーチミン、とベトナム全土を縦断

するスケールの大きなものでした。ベトナムの一般事情については旅行小冊子によると、国土面積は日本とほぼ同じ三十五万平方km、人口九千二百万人、首都ハノイ、仏教徒八十%、通貨はベトナムドン、となっています。

いよいよ羽田空港出発、六時間後ハノイ到達目前に眼下にみえる風景に私は小さな戸惑いを感じました。私の目に映ったもの、郊外の水田はきれいに区画され、幅広い道路が幾重にも伸び、夕暮れの街頭は何処



ハロン湾 無数の奇岩がそそり立つ大自然の不思議、まるで映画の中に入ったよう

まで続き、高層ビルが繋がるのを見て、「オヤ?」「ほんまかいな」私の無知がもたらす感想でした。旅行初日は世界遺産の中でも最も美しいと言われる

旅行最後に訪れたのは、ホーチミン(旧首都サイゴン)とクチトンネル。ベトナム戦争(一九五四〜一九七五年)はサイゴン陥落後アメリカはベトナムから撤退、その後ベトナムは南北を統一し社会主義共和国として生まれ変わりました。ここホーチミンはベトナム戦争最後の地となり米軍とベトナムゲリラと激しい戦闘が繰り返

されたところ。そのゲリラ戦の基地であるクチトンネルは蟻の巣のように広がり全長二百kmにも及び、近代装備を持った米軍も攻めきれない出来なかつたのです。現在は観光地としてアメリカ人を含め多くの観光客が訪れます。ベトナム戦争で大きな問題となつたのが米軍機による枯葉剤散布です、これは四十年余り経た今も多くの人々が後遺症に苦しんでいます。日本でもベトナムの注目を集めました。

ベトナムの朝はバイクの洪水で始まります。人口九千二百万人に対しバイクは四千万台、約成人一人一台、バイクが無くては仕事も出来ないと言います。特に日本製のバイクは若者の憧れのようです。また「ホンダ」なぜか「あじのもと」の言葉で親日感情をあらわします。ベトナムの人は日本を好意的に捉えています。

今ベトナムの人たちの心意気は高く活気に溢れていることを強く感じました。ベトナム戦争でアメリカにも屈せず、かつては日本、仏、中国にも負けなかった自負が今尚受け継がれています。また、国全体の平均年齢は二十六才と若く上昇志考が高く「今日よりは明日、明日よりは明後日は必ず良くなる」そのために今日を頑張る、夢をもっている、そんな印象を受けました。無論そんな中にも問題、不満が無いわけでは有りません、社会主義にありがちな公務員、民間との差、所得格差も大きく課題は沢山あります。

### 住職雑記

○興行寺新報も字が小さく読みづらいという意見もありました。昭和四十二年より続けて九十六号まで来ました。平成三十一年秋季号で百号になる。皆さんのお陰で続けられました。

○どこのお寺も最近参詣者が減少している。当寺でも平成十年蓮如忌二百二名、平成二十七年百三十名。報恩講も二百二十七名から百三十六名に激減している。色々理由があるが、今までお参りしていた方が亡くなると、次の世代の方が参つてもらえないのも大きな原因。当山でも、三日間勤めた蓮如上入御忌、報恩講とも、今年より二日間になった。さみしいことです。今若者の宗教離れ、過疎化等大きな課題を与えられています。共に後継者への念仏相続に尽力しましょう。

# 樹齢四百年 幻のしだれ桜を生中継

FBC・TVおじゃまっテレ

今春は、しだれ桜も例年よりおそかった。

天候も晴間が広がり青空。桜も丁度見頃というタイミングのよさで「幻のしだれ桜」というタイトルで、四月十四日(金)、FBC・TVおじゃまっテレで、生放送された。

午前中より機材が運び込まれ、富山より借りて来たというクレーンも中庭に設



置された。高さ九メートル、周囲二・五メートルの桜の木もクレーンから映すと普段自分の目の高さで見ている桜とは、上の方から映すので、違った角度から桜を見ることが出来、高い所の花も間近かに見える。当日は見事に桜の美しさを紹介された。

「幻のしだれ桜」とは平成十七年に本堂、対面所の中庭の整備を行った。それまでは離れの客殿があり、廊下が連なり、本堂裏は墓地があり、杉林もあり外部から、入れることが出来る。対面所の部屋から眺めること位で、全体を見ることも出来なかつたし、外部の人が、ほとんど知ることのない、知られざる桜であった。樹齢四百年という、しだ

れ桜を多くの人に見て頂きたいと、建物、庭全体を見直し、庭園の工事が行われ、本堂裏は芝生になり、外からも出入り出来るようになり、近年は遠方からも訪れる方も増えてきた。

今回、川島アナウンサーがおじゃまっテレビで急な取材であった。生中継ということで広く多くの方にも見ていただけたことは幸いであり、ありがたいことであつた。四百年という長き間、毎年の積雪にも懸命に頑張っているこの古木、出来る限り保存し、幾年にも渡り立派に花を咲かせますよう見守っていきたく。

川島秀成アナウンサー 生中継について  
「今回、おじゃまっテレビでは「地域で人気」「知らざる桜の絶景」をテーマにリサーチ。ぜひ紹介したいしだれ桜を発見。永平寺町上志比地区にある「浄土真宗興行寺」。本堂の裏手に

見事な花を咲かせる。住職の奥さんは、毎日桜に話かけ、大切に守ってきた桜。おじゃまっテレビライバーではこの桜を県内テレビ局初の生中継でその魅力を紹介。桜の歴史やエピソードを交え、クレーンなどを駆使し、絶景の桜を紹介しています。以上のように、FBC川島アナウンサーが企画、製作され生中継された。



## 初参式

今年も新しい命を育む赤ちゃんの初参式が去る五月二十八日宗祖降誕会と共に行われ、六名の赤ちゃんが受式された。

- 大嶋 隼冬ちゃん 福井
- 大嶋 唯仁ちゃん 福井
- 本城いろはちゃん 坂井町
- 小林 颯虎ちゃん 福井
- 南部 圭吾ちゃん 藤巻
- 木谷 心美ちゃん 松岡

すくすくと立派に手を合わせる子に育って欲しいことです。家族みんなでお子さんの成長を喜びたいは家庭の幸せでもあり、家族の



絆を一層深めるものであります。

## 春の叙勲

ご門徒の藤田貞武氏(福井市川合鷺塚)が瑞宝双光章を受章された。消防団員として四十年余り活動。福井市消防団長。十二年より県消防協会会長を勤めた。又、本願寺より、表彰状。お祝のこぼ、記念品があり、住職が届けた。おめでとございしました。

## 寄附

今春、勝山市 山口知子さん(六十五才)が亡くなり、次女の野野宮富嶋 松田晴美さんが納骨堂のタタミ一式を新調して下さいませ。

## お便り

東京一音寺 松本順昭様  
此度は「道場」さんを訪ねて「御恵送り」頂き、真に恐縮に存じます。福井県内で出版された本はなかなか視野に入らずに、口惜しい思いをすることになりました。又、私どもの「道場」への関心を御心に留めて頂き、ありがとうございました。真に有難く御礼の申し上げます。

書名の「道場」の下に「さん」と敬称が送つてあることも、御法義の篤い御地の方々のお仕事と、改めて大切なことに気付かされる思いがございました。御健勝の裡に夏季をお過ごし下さいますよう念じ上げます。

福井 井原淑子様  
去る四月九日のイベントの御招待状を賜り、「こんな私夫婦に迄」と嬉しくて、その日より指折り数えて待たせて頂いてまいりました。ところが喜びすぎて、ただの傍観者であつた為で八日の日から、体の方が悪くなりました。インフルエンザにかかったらしく思うように動かすことが出来ず、とうとう一週間程、寝こんでしまいました。二、三日前にテレビを入れますと、思ひかけず興行寺様のお庭が写されていました。「幻のしだれ桜」とのタイトルでした。私は、なんととも言えない御縁に驚きました。そしてこの機会に出逢えたことに、つい手を合せて拝んでいました。御住職様のお姿も拝すことが

出来、美しいしだれ桜を始め、すばらしいお庭の木々や水の流れを思い出させて頂きながらテレビを見させてもらっていました。有難うございました。来年もぜひお知らせを待って、喜び一杯で友人達をさそって、つどわせて頂きます。

## 児童一泊研修会終る

今夏も厳しい暑さではあるが元気に小学生四十七名がお寺に集って仏さまのお話を聞き、共に一泊二日(八月三、四日)の研修会を行った。今夏は阿弥陀様に常に願われている私であることを知ることを学んだ。人気は夜の芝生でのオリンピック大会と花火である。来年も多くの児童の参加をお待ちしています。



知多市 飯野千鶴様  
この度は父正二に御院号の御法名を授けて頂き、御香典を頂きました事、誠に有りがとうございました。両親との別れが続き何とも言えない寂しさが募つております。ずつと生活を共にして思い出も沢山あり、一人切ない思いでおります。新緑の季節になりましたら、母の下へ納骨させていただきます。その節にはよろしくお願ひ致します。

目を楽しませてくれる花々が咲き誇る時期になりますね。御身体に気をつけて下さいませ。

鹿兒島県日置市 東 一男様  
私も五年前から重度身体障害者(一級)に認定されて週に三日通院しております。

西尾知愛様  
いつもお世話になり、本当にありがとうございます。母も弟も妹も、私も仏縁に巡り合せていただけたこと本当に感謝しています。これからも手を合せて南無阿弥陀仏を唱えていきます。(卒園生 小学校教諭)

二十八年年度卒園保護者の声

「つばやき・命」

先生方が つばやいて、心スッキリ、命の無駄遣いをしない、と何度も言われ、初めは「つばやき」でした。子どもの素直な姿を見ると、親も一緒に生きていく上で大切なことを学ばせていただくことができました。行事ごとに、見た目のよさではない、子どもの心の育ちを感じそれを支えて下さる先生方の努力に感謝、感謝です。本当にありがとうございました。

「先生」

一つ一つの行事に先生たちは一生懸命で、園児ひとりひとりに合わせた接し方をしていた。大好きな園に出会えて本当に良かったです。

「バス運転手」

色々なことに興味がありやってみるタイプの子でしたが、それだけではなく、

「つばやく」

周りのお友達がどんなことを思っているのか、みんなと協力するとはどうしたら良いのか。一人では学ぶことができないことを沢山学び、成長したと感じます。順位をつけなかったり、悔しい気持ちが少ないよう教育されていく所が多い中、でもあきらめず頑張る！という姿勢はともありがたいです。私自身も頑張ればこんなにも得るものが倍になり、しかもあんなに成長し、成功もしているんだと学ばせて頂きました。

「つばやく」

幼稚園で教えて頂いたこと「つばやく」。つばやくことで私自身の気持ちも楽になり、子供にも素直になんでも話すようになり、子供も素直になんでも話してくれて親子のコミュニケーションが一段と増えたなあと思えました。母の会はずごく楽しかったです。先生と子供達がひとつになつて頑張る姿や普段の生活の中、思うようになら

「生きる力」

命の大切さや自分の気持ちを素直につばやく事、自分で考える力、理解する力があると思んだ幼稚園です。同じ目線で接して下さっているのだと伝わりました。

「あいつ」

先生や子供たちの元気なあいさつに感動して絶対にこの幼稚園に入りたい！と思いつきました。

「感謝」

子供を通して、母として子供を通して、母として子供を通して、母として

「命の大切さ」

感謝やお陰様の心、きちんとしたマナー、ふるまいなど、この時期だからこそ身につけたい、学びたい事を教えて頂けたと思います。

「命をいただく」

心が成長できたと思います。自分のことしか考えられなかったけど、お友達の気持ちや考えを思い、食卓を「いただきます」食べるのではなく命を「いただきます」という大切なことを教えていただけたいと思います。

「習慣「手を合わせる」

小さい頃から自然と手を合わせる習慣があつたので、家でも自然とお仏壇に手を合わせられるんだと思います。ありがとうございます。

「ありがとう」「ごめんない」

ありがとうやごめんない、いすが言える子だなぁと日々感じます。人の心を知りたかったら、自分の心内を見せる事が大事だと先生方のお話を聞かせていただいたと思います。

「命の大切さ」

そつと弟に渡して、「あのね、ペンや本にも命があるの。大事にしないと。お花や木やちっちゃな虫とかみんな命があるんだからね。」と。命の事をこの子なりにちゃんと理解している事に本当にびっくりして感動しました。これから成長していく過程で、幼児期に難しい「命」の大切さを学んだ事、そしてそれを弟に伝授している事。成長を感じ、親として安心と頼もしさを感じました。

「ブログ」

ようちえん日記を毎日先生が更新して頂けるので、子供たちの様子が、写真でも伝わってきて今日も充実した一日を過ごしていたんだなと安心できたり、子供と話すきっかけができた。ありがとうございました。

「先生」

幼稚園では、友達を思いやることの大切さ、いのちの意味、感謝する心。新田塚幼稚園に入園したからこそ学んだことがたくさんあります。また、娘が年中の頃、心のバランスを崩してしまつた時、私や他の家族が何を言っても変わらないがなかつた娘の心を、先生方の「大丈夫だよ。いつも見ているよ。頑張らなくていいんだよ。」の言葉で、救ってくださり、本当に感謝しています。娘は、「新田塚幼稚園の先生は、楽しい時は一緒に笑ってくれて、悲しい時は、一緒に泣いてくれるの。だから私も将来、新田塚幼稚園の先生になりたい!!」と言っています。

短 信

卒園児である黒川智代さんのピアノリサイタルが去る七月十七日午後二時よりハーモニーホールふくい小ホールで開かれた。モーツァルト、シューマン、ドビュッシーの曲を熱演し、観客を魅了した。今後も一層精進、ご活躍を。



お 便 り

お忙しい中、お送り下さっている貴院の会報をいつも楽しみながら読ませて頂いております。大変ありがとうございます。

私は現在、訳あって東京大学大学院に在籍しております。今年度にも修士論文を提出する予定です。毎日、朝から晩まで大学で実験に測定に忙しい毎日を送っておりますが、そんな時でも時折、貴院の会報を

読んでおりますと、昔懐かしい幼稚園時代を思い出すことが出来、心に余裕を持つことができます。次回帰省した際に機会がございましたら、貴園を訪れてみたいと思っております。

川端 慎太郎(卒園児)

今春四月三日、福井市より功労者表彰をいただきました。